



蔵王権現と蔵王山の地質

蔵王山という名前は、鎌倉時代中頃から室町時代初め頃、田原にいた山伏^{やまぶし}(※)が蔵王権現を開創したことから名付けられたといわれています。

蔵王山を平地から見た際に目につくのは、山頂にある展望台です。展望台からは、汐川干潟や田原市街地、三河湾、姫島、東三河の山々などが一望でき、とてもきれいな景色です。空気が澄んだ日には富士山が見えることもあります。

展望台には、車で行くことができますが、登山道も整備されています。四季折々の自然を感じながら、権現の森から登ることができます。蔵王山は古くから信仰の場とされており、登山道の途中には、現在でも蔵王権現や熊野三所権現^{くまのさんしよ}があります。また、道中に太平洋戦争の慰霊碑、山頂付近に戦争遺跡^{せんごう}の塹壕などの歴史的な遺産があります。

また、蔵王山の地質は、周辺の山々と同じく主にチャートできており、泥岩や石灰岩なども見られま

す。チャートや石灰岩は、海底の放散虫やサンゴ礁などが長い期間をかけて岩石化したものです。これらは、はるか昔、海底にあった大陸プレートが太平洋プレートの働きによって隆起し、地上に現れた岩石です。そのため、展望台^{ろどう}の下^{ろどう}の道路に面している場所では、チャートの露頭が、登山道の途中の所々にはチャートを見ることができます。

権現の森から歩いて登山し、展望台で渥美半島の景色を眺めてみると新たな発見があるかもしれません。ぜひ蔵王山に出かけてみてはいかがでしょうか。

※ 山中で修行をする修験道の宗教者

(学芸員 清水俊輝)



▲ 展望台下の道路沿いにあるチャートの露頭